

# 人為的学習障害:Artificial Learning Disabilities

じんいてきがくしゅうしょうがい:アーティフィシャルラーニングディスアビリティイズ

## 反射式プリントが作り出す人為的学習障害 (ALD)

速くていいのは「10の補数(または18までのデンタくん)」と「九九」だけです。他の計算まで速くしてはいけません。速くて悪いことはないと思っている人が大勢いらっしやいますが、速くてはいけないこともあるのです。特に幼児期の学習でスピードを付けることほど危険なことはありません。なぜなら、考える力を養成すべき時期には速さが一番の大敵となるからです。「作業と思考は反比例する」ということをご存知でしょうか。例えば、単純作業を速くしようとする場合を考えてみて下さい。単純作業を速くするには、何も考えないで作業に没頭する必要があります。また、速い作業をしている時に何かを考えようとしても考えられません。つまり、速い作業は考えることを妨害する作用があるということです。大人でもそうですが、計算を速くしている時には、頭の中では思考が止まっています。高速計算は、作業であって思考ではないからです。速い作業(高速計算)をしている時には頭の中では「考えるな」という指令が出ているということです。ですから、幼児期に一番注意しなければいけないのは、高速学習なのです。高速学習は、反射的に処理することを要求していると同時に「考えるな」という指示を出しているのです。そこには「考える力」を生み出す要素は何もないということです。集中しているという人がいますが「考えない集中力」をどんなに付けても思考力は育ちません。集中力には「考える集中力」と「考えない集中力」があるのです。ここに笑えない笑い話があります。「赤ちゃんが話し始めたとたんに、速いことがいいことだとばかりに、母親がその子を早口言葉教室に毎日連れて行って高速会話が出来るようにした。周りからはスゴイスゴイ速い速いと言われ、親子揃って有頂天になった。そのうちに、その子はゆっくり話すことが出来なくなり、言いたいことも聞きたいことも分からなくなって一言も話さなくなった。これら一連の症状を人為的学習障害(ALD)といいます。早口言葉を計算や速読や大量暗記にしても同じです。この話は笑い話ですが、殆ど同じ事が現実起きており、報告もされているのです。